

火災に備える

火災とは・・・

地震や風水害と違い、火災は人間の不注意から起こることの多い災害です。大切な命や財産を失わないよう防火体制を整えましょう。

主な出火の原因と対策

- ① コンロ・・・コンロ周辺に燃えやすい物を置かない。コンロから離れる際は火を消す。
- ② 放火（疑い含む）・・・家周辺に燃えやすい物を放置しない。車庫や物置には施錠を。
- ③ たばこ・・・火がついたままでの放置、寝たばこは厳禁。灰皿には水を。喫煙場所を設定。
- ④ 電気機器・・・傷んだコードはすぐに修理・交換。説明書を読み、正しく使用。

火災への対応

火災で危険なのは火と煙です。特に煙は、炎よりはるかに速く広がり、有毒ガスを多く含みます。避難時には煙にも注意しましょう。

1 知らせる

- ・大きな声や大きな音を出し、隣近所に助けを求めましょう。
- ・小さな火事でも、すぐに119番通報をしましょう。



2 消す

- ・火が横へと広がっている間に、温度を下げるか酸素の供給を止めることで消火します。
- ・消火器を噴射する際は、風上から、炎ではなく火の根本を掃くように左右に振ります。
- コンロ・・・油なべの場合、水は厳禁。消火器で消すか、蓋や濡らしたシーツで覆う。
- 電気製品・・・水をかけると感電の危険も。まずコードを抜き、粉末消火器で消火。
- ストーブ・・・消火器がなければ、真上から一気に水をかけるか濡らした毛布で覆う。
- カーテン（障子）・・・燃広がる前に引きちぎり（蹴倒し）、消火器や水で消火。
- 衣類・・・水をかぶるか、火が付いている部分を下にして寝転がって消す。
- 風呂場・・・戸はいきなり開けずガスの元栓を閉めてから徐々に開け、一気に消火。

3 逃げる

- ・火が天井に届いてしまったら、迷わず避難しましょう。

避難のポイント

- ① 一気に走抜ける。水をかぶるか、濡れたシーツ等をかぶると効果的。
 - ② 煙の中では、濡らしたハンカチ等で口と鼻を多い、姿勢を低くする。
 - ③ 避難した後は中に戻らない。逃遅れた人がいれば消防隊に知らせる。
 - ④ 燃えている部屋のドアや窓を閉めて、延焼を防ぐ。
- * 下の階から出火した場合 → エレベーターは使わず、外階段を利用する。
 - * 下へ逃げられない場合 → 屋上へ出て、風上で救助を待つ。
 - * やむを得ず2階から飛降りる場合 → 布団等クッションになる物を投落としてから。

